

# 薬草だより

## 橋本竹二郎の植物画紹介

### その2

樋口 剛央\*

アケビ (アケビ科)

*Akebia quinata* (*Lardizabalaceae*)

生薬名：木通 (モクツウ)

花期は春。蔓性の茎を薬用部位とする。五淋散、消風散、当归四逆加呉茱萸生姜湯、竜胆瀉肝湯等に配合される。



クサボケ (バラ科)

*Chaenomeles japonica* (*Rosaceae*)

生薬名：和木瓜 (ワモッカ)

花期は春。果実を薬用部位とする。古くより民間薬として利用される。乾燥させて刻んだものを煎じたり、酒に漬け込んで薬用酒にする。



タムシバ (モクレン科)

*Magnolia salicifolia* (*Magnoliaceae*)

生薬名：辛夷 (シンイ)

花期は早春。つぼみを薬用部位とする。葛根湯加川芎辛夷、辛夷清肺湯等に配合される。



橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

来歴

1931年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所(現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

主な著書

「山路の花しるべ」(共著、巧玄出版、1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版、1979)、「目で見える薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店、1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社、1994)ほか